

# 東日本ユニオン よこはま

JR 東日本労働組合  
横浜地方本部  
発行者/ 松田 和秀  
編集者/ 教育広報部

## 申6号「2017年ダイヤ改正」交渉を行う!

2月21日、申第6号「2017年ダイヤ改正」に関する申し入れの交渉を行いました。

冒頭「ダイヤ改正の交渉が行われる前に、職場でダイヤ改正の開示がなされている。過去何年も見てもこのような進み方で行われていなかった。労働組合を蔑ろにしているのではないか」「残りの半月で今回交渉の中身をどのように取り入れるのか」「もっと早くできたのではないか」「12月時点から提案とその後の交渉を早く行おうと再三言ってきたが、この交渉日の設定はアリバイづくりではないか」「現場も苦労している」と訴えてきました。

会社は「交渉前に職場においてダイヤ改正についての周知というのはあったが、ダイヤ改正に向けて並行的に異例ではあるが準備を進めてきた。いたずらに交渉を延ばしたわけではない」「組合側からの行路の組み換えの提案や申し入れをいただき、精査して会社が責任を持って回答し、ダイヤ改正を迎えるという考えである」「交渉が今日に至ったが、蔑ろにはしているわけではない」という歯切れの悪い回答でありました。今後も「組合員の声」の実現を目指し、早期の提案・交渉をするように、さらに強く訴えてきました。

### 共通項目（概要）

#### 1. ダイヤ改正の提案は、実施の4ヵ月前までに行うこと。

会社：毎年繰り返しになるが準備出来次第の提案となる。いたずらに時期を延ばしているわけではない。

組合：現場の苦労も鑑みて、早期の提案を行うこと。次期ダイヤ改正は早く提案できるように準備すること。

#### 2. 各職場に各種研修、委員会、静養休暇等が生じても休日出勤で賄うことが無いように実要員を配置し、年休の未消化が発生しないようにすること。

組合：要員のプラス時期はわずかな期間しかない。研修等のスケジュールなど本社と調整するべき。

会社：運転士・車掌の要員が厳しい時期は脱していると考え。バランスを見ながらスケジュールを作成している。

#### 3. 食事を取り得る時間として実質朝30分以上・昼夕40分以上を確保すること。

会社：列車ダイヤに左右される。実でとれるようにバランスを見て精査している。

組合：運用される側は時間が足りない。実質取り得る食事時間を設定するように追求すること。

#### 4. 睡眠を取り得る時間として、実質4時間30分以上を確保すること。

組合：実質取り得ていない。布団に入ってから起床装置が動作するまでの時間を最低でも4時間30分に。

会社：バランスよく作成している。睡眠時間を増やすと食事時間など減る。配慮しながら設定している。

**多くの点で平行線のままです。  
安全と働きやすさを求め、全組合員が一丸となり、  
ダイヤ改正の検証を行っていきましょう!**